

体育祭のあいさつ (平成28年5月28日・土)

「おはようございます。」55回目の体育祭を迎えます。

さて、今年は、「55東中が一番」を合言葉に、「力戦奮闘 クラス旗かかげ 東の頂点ここにあり」というスローガンで、体育祭の練習を重ねてきました。とうとう今日、その本番の体育祭を迎えました。暑さに気をつけながら、全員が、「東の頂点」をつかみとれるようにがんばってほしいと願います。

それでは、今日の体育祭の開始にあたり、2つのお話をします。

1つめは、練習から今日までの皆さんの足跡のお話。

2つめは、55回目の体育祭の歴史を通して学んでほしいことです。

では、1つ目からお話します。皆さんのこれまでの足跡です。スローガンづくり、選手決め、クラス旗づくりと、4月から体育祭の準備がスタートしました。なかでも練習の開始から今日まで、素晴らしい練習の姿勢を見せてくれました。クラスの朝練習、昼休みの練習など、みんなでジャンプの練習の声がよく校長に室に届いてきました。そして何よりも、実行委員会である体育委員を中心に、みなさんの自主的な運営でこれらが行われてきたことに感心していました。「体育祭だより」の発行、事前の打ち合わせや予行で見せてくれた、各係の活動、自分たちの力で、自分たちの体育祭を実施しようとする、自主性や自治能力が随所にみられたと、実感しています。今日、皆さんの持っている、その自治的な力を、ぜひご来場いただいている皆さんに、「東の頂点に向かう姿」として、見せてほしいと思っています。

次に2つめの、55年目の体育祭の歴史お話です。

55回、つまり55年間途切れることなく続いてきた体育祭です。続いてきたということに大きな価値があります。55年前と、今年は、開催の時期も、生徒も先生もまったく違います。種目も大きく違うのではないのでしょうか。55年という歴史のなかで、様々な変化、様々な変わりようがあったと思います。しかし、続けているという事実の重さを噛みしめてください。人が違って、季節や種目は違って、継続されてきたことが東中の伝統です。目に見えるものが伝統ではありません。変化してもなおかつ、この体育祭に思いをぶつけていく中学生の、気持ちや意識はきっと同じものではないのでしょうか。それも伝統です。多くの先人の皆さんの歴史のうえになりたっているという、目に見えないものを大切に、今日1日、全力を尽くしてください。皆さんの日々の生活の姿を、体育祭の競技と演技という表現で見せてください。

最後に、体育祭の前に皆さんに、次の言葉を贈ります。

「体育祭という花は、歴史という根っこ、日々の営みという茎に支えられて、咲くことができます。」繰り返します。「体育祭という花は、歴史という根っこ、日々の営みという茎に支えられて、咲くことができます。」

最後になりましたが、本日は、多くのご来賓の皆様、応援に駆けつけてくださいました保護者の皆様、地域で学校を支えてくださっている皆様、本校体育祭にご来校くださりましてありがとうございます。本校の生徒たちの熱い思いの表現される、競技や演技をぜひご覧ください。そして、中学生のエネルギー、中学生の力を、明日からの私たちの社会の活力として受け取る機会となれば、中学生への大きな励ましになると確信します。本日はどうぞよろしくお願いたします。